修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　前田　寛
〒101-0054　東京都千代田区神田錦町1-17-1（NK第一ビル）☎03(5259)0631
振　替　00160－7－36337

財団法人全国修学旅行研究協会（全修協）は、日本の教育の振興に寄与することを目的とし、教育を熱愛し子供たちの幸福を希求する人々の支持を得て、修学旅行の改善向上を目指して、全国的規模で活動する文部省許可の教育研究財団である。

西向き修学旅行の声が高まる
東海修委の近況報告

東海三県修学旅行委員会では、愛知・岐阜・三重県の校長会の意向を基に、より良い修学旅行を目指して活動をしている。

活動の主なものは、

1、集約輸送関係

2、修学旅行の改善

である。

愛知県の場合は、県教育委員会の指導で旅行地の範囲が定められている。従って小学校との絡みから、殆どの中学校では関東方面に出かけているのが現状であり、そこに問題点も出ている。

まず集約輸送の上から、学校の希望する日にちに出発出来ない。

学校週五日制との絡みから、土・日曜を避けたい、等が主なもので、希望が受け入れられないから、集約輸送から外れるという学校も少しずつ増えて来ている。

逆に、集約輸送だからこそ比較的いい時間に出掛けられるのであり、集約を外れた場合は、季節的にも時間的にも、学校間で競争になり、逆に難しくなるのではないかとする意見もある。

そこで、修学旅行先を関東一極にしないで、関西・中国方面へと分散拡大を考えていけば、列車にもゆとりが出て来て、希望する時間も取り易くなり、ひいては宿舎の確保も容易になるのではないか、そして学校独自の特色ある修学旅行が出来るのではないか、という意見も名古屋市内だけでなく、県内に出ている。

そこで東海修委はまず学校週五日制を睨み、土・日曜を外すためにどうするかを考えた。さらに「専用列車」を走らせることが、難しくなって来ている現状と、「専用列車」は連続七日以上運行させる条件があることを考えて、「定期列車」ならば、一般客と混乗ではあるが、土・日曜を外すことが可能となり、集約輸送の特典である特急料金の半額は残せるので平成十一年度から「定期列車」対応として実施することとした。

また、平成九年度の愛知県校長会のアンケートの中にも、行き先を拡大してはどうかという意見があった。

そこで、もし西方面へ可能になった場合を想定して、今年度始めて、全修協が中心となり、中国地方への現地研修も今夏実施した。

班別分散等の活動が増加している現在、修学旅行の目的を再度考え、全体で行く旅行の意味をも熱慮し、学校でなければ出来ないような旅行について考えたいものである。

綿密な資料収集から、計画・準備・実施を目指して、東海修委は事務局の全修協と協力し、学校側の要望に即く答えられるように、今よりも一層研究を深めていく方向である。

名古屋市立港明中学校（二面に作文）

主張
地球と人にやさしい修学旅行

財団法人　全国修学旅行研究協会（全修協）は、教育改革進行のなかで、常にこれからの修学旅行の在り方を学校教育との関連において追求し続けてきた。修学旅行は教育活動の一環であり、その在り方は教育の課題を的確に踏まえたものでなければならない。そこで全修協は多くの教育課題のなかから、人類にとって緊急かつ重要な課題である環境問題との関わりに焦点を当てて修学旅行の質の転換を提案する。

1　環境学習の必要性について

地球環境の現状と課題から○自然環境の自浄能力は限界に達している。○北極から南極、成層圏から深海底まで地球生態系の崩壊はグローバルな範囲で加速度的に進行している。○人類の明日を脅かす砂漠化、森林の消滅、酸性雨、フロンガス、食品の環境、世界の人口の増加と発展途上国の生活水準の向上を目指すエネルギーと資源消費量の増大による地球環境への深刻な影響が見込まれる。○環境悪化の構図は人災である。

2　自然と人間との共生の確保への意識転換を図る。

人間が人間中心主義的で自然を征服してきた。この意識をかえて人間も地球上の生命体のひとつとして他の生命体との共生関係を重視し確保することである。

3　地球環境を守ることを誰がするのか。

それは○公平な役割分担の下で、すべての主体が自主的積極的に環境保全に向けて行動することである。幼児から高齢者まで、また学校、地域、家庭、職場、事業所で一人一人が環境負荷の少ないライフスタイルの転換を促進することである。国、各地方公共団体、事業所の取り組み・各企業のリサイクル、資源回収を見通した製品の開発、販売、回収など○学校としては教育課程のなかで体験的な学習や問題解決的な学習を通して「生きる力」を育み、家庭や地域への啓発に努めることである。

4　修学旅行に環境学習を取り入れることにより次のような質的転換が図られる

（1）修学旅行地を自然環境学習や歴史文化環境学習等の視点から見直すことにより、修学旅行での学習を人間の生き方として深めることができる。

（2）修学旅行の事前・現地・事後の学習に環境学習を取り入れることにより、自主的・体験的学習活動の拡大と多様化を図ることができる。

（3）総合的学習の時間の学習課題を「環境」あるいは「環境問題」とすることにより、修学旅行を通して体験的に補充・深化・発展させ、学校段階の環境学習を総合することができる。

（4）環境学習を取り入れることにより、修学旅行を頂点とする各学年の遠足、旅行・集団宿泊的行事に、学校としてのテーマに一貫性を持たせ、修学旅行を全校的な行事として位置付けることができる。

（5）自校の修学旅行を環境学習の視点から見直し、環境に負荷を与えない修学旅行として構築し実践することにより、地球と人にやさしい生き方を身につけることができる

5　環境学習実践内容例

自然環境学習

（1）自然観察学習

森林・山野・湖沼・河川・海洋を学習する場に自然に親しみ生態系や自然の仕組みや恵みを理解するなど

（2）環境問題学習

環境保護、地球環境問題、エネルギー問題について考えるとともに、環境への負荷を与えない修学旅行や生き方を考えるなど

（3）自然体感学習

陸・水・空のスポーツを通じて自然と親しみ、自然との一体感を体感し自然のすばらしさ、大切さを実感するなど

（4）生活文化体験学習

農・林・水産業など自然や気候風土が育んだ生活・文化を体験し、自然と人間の共生について考えるなど

歴史文化環境学習

（1）歴史的建造物・彫刻・庭園など時代を超えて守り受け継がれてきた知恵と心に学び、環境との問題を考える

（2）生活歴史文化学習

地域に伝わるエコロジカルな生活文化を体験し、環境へのやさしさのある生活化を考える

（修学旅行部長　岡村政彦）

大阪府立高校航空機利用調査
国内修旅を中心に八七、七％が利用を考える

この調査は、財団法人全国修学旅行研究協会が近畿地区における航空機利用状況の概要を把握するため平成十年の二、三月に実施した。対象は大阪府・市立高校の平成九年実施の修学旅行とそれ以後の予定である。

それによると、回答一〇六校の内現在航空機を利用している学校の割合は五〇、九％、今後は利用を考えるが三六、九％併せて八七、七％となっている。

一　航空機利用状況

(1)　利用している　五四校

国内修旅に　五一校

海外修旅に　六校

(2)　していないが今後は利用も考える　三九校

国内修旅に　三三校

海外旅行に　十校

(3)　利用したくない十二校

二　航空機利用の理由

・移動時間の短縮・行動範囲の拡大　七四校

・時間短縮により日数縮小　五四校

・運賃の格差がなくなった　十八校

・安全性が確認できた　十三校

・海外に変更できる十一校

・その他　四校

三　航空機未利用の理由

・航空機利用しなくても実施できる　十一校

・欠航、緊急事態への不安　七校

・安全性が気になる　六校

・費用がたかくなる　六校

・保護者の理解が得にくい　二校

四　利用交通機関（平成九年度）

・JR　二三校　一七・六％

・汽船　二校　一・七％

・バス　五八校　四四・三％

・航空機四八校　三六・六％

五　航空機利用校の行先

北海道　八校

東北　十一校

九州　二校

海外　五一校

風紋

台風シーズンを迎えた。昔、夏の国（BC二千二百年頃）の禹王は良く長江を治めたという。ある年、洛水という河の氾濫を禹王が治めたところ、河の中から大きな亀が現われ、その背中に、串刺しの団子を並べたような不思議な文様があった。この串刺し団子を数字に直して見ると、五を真中にして、首の辺りに九、尻尾の辺りに一、右に七、左に三、その中間に二、四、八、六というように一から九までの数字となった。不思議なことに、縦、横、斜め共に和は必ず十五であった。この数字に色を配し、さらに五行説をくっつけて例えば「白水星」「二黒土星」とした。九星術である▽九は人の名前では久に通じ、また数の多いことを表すが、九尾の狐、九頭竜などのように伝説・空想の世界にも通じる。九が重なる九月九日は重陽の節句、菊の節句である。中国では、菊は延寿の効があると信じられ、菊酒を飲む風習があった。菊は八世紀に中国より伝えられ日本人好みとなった。日本では「きせ綿」といって、一晩、菊に綿を被せ、翌早朝綿に含まれた露で身を清め延寿を願ったという▽掛け算九々は現在どのように教えられているのであろうか、ふと子どもの頃を思い出す。この学習の課程は、一人一人の能力に合わせて、徹底的な個人指導で行われた。放課後の残り勉強が嫌で必死に暗誦し、家では親きょうだいも手伝ったものである。これはまさしく学習の基本であり、基礎基本の学習は極めて単純明快なのである。（鴻）

教育の窓

「総合的な学習の時間」を考える

文部省主任視学官　渡部邦雄

一、今なぜ総合的な学習か

今日の学校教育、とりわけ義務教育のそれは、我が国の教育水準の維持や教育の機会の均等性に対して、一定の成果をあげてきたが、指導内容、方法、評価などに関しては、画一的、硬直的な教育になってしまったとの指摘がある。

一人一人の子どもの個性を伸長し、創造性、主体性を育む上で、十分機能していなかったように思われる。その上、上級学校への受験対策にシフトした知識注入型、暗記型の授業も相変わらず見聞される。

これらの課題を克服して、子ども一人一人の個性を伸長し、創造性、独創性を育む教育を推進することが大切である。

各学校が地域や学校の実態に応じて、創意工夫を生かしながら、特色ある教育活動、特色ある学校づくりを展開する必要がある。そのために、総合的な学習の時間が有効となる。

一方、社会の変化が一層進展する中にあっては、これまでの知識や技能が陳腐化し、変化に対応できなくなる。子どもたち一人一人に、その変化に主体的に対応できる資質や能力、すなわち、全人的な「生きる力」を育む必要がある。

そのためには、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習を推進していくことが不可欠である。その意味合いからも総合的な学習の時間が設定されたと言える。

二、ねらい

各学校の創意工夫を生かした横断的・総合的な学習や子どもの興味・関心等に基づく学習を通して、

①自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること、②情報の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表・討論の仕方などの学び方やものの考え方を身につけること、③問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育てること、④自己の生き方についての自覚を深めること、などが大きなねらいの例として考えられる。

試験後にすぐに剝落する「学力」ではなく、本物の学力として、身につけられるような取り組みが求められているのである。受け身ではなく、主体的に学習を進め、問題を発見し、探究し、解決を目指すのである。learn型ではなく、study型を目指すのである。

教科、道徳、特別活動で身につけた知識や技能などが相互に関連づけられ、深められ各人の中で総合的に働き、その後の生活や学習に生きて働く力として、体得されることをねらいとしている。

三、学習活動

例えば、①国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題②児童生徒の興味・関心に基づく課題　③地域や学校の特色に応じた課題　などについて取り上げて、学習活動を展開することが考えられる。

そこでは、自然体験やボランティア体験、観察・実験、見学や調査、発表や討論、物づくりや生産活動などさまざまな体験的な活動、問題解決的な学習など、五感を通して体全体で実感する具体的、実践的な活動が展開されることが期待されている。

指導計画の作成に当たっては、この時間をある時期に集中的に実施したり、課題や学習活動に合わせて、弾力的、効果的に行われるようにすることが大切である。学習形態も個人はもとより、グループ学習、異年齢集団による学習など多様となろう。

指導体制も担当教師一人による指導から、異なる教科の教師による協力指導（T・T）をはじめ、外部の人材の協力を得た指導などの工夫が必要となる。

学習空間も学校の中だけに止まらず、地域の豊かな教材、さまざまな学習環境の活用などが考えられる。

まさに、多様な学習活動の展開が予測されるのであり、これまでのような画一的、硬直的な指導では対応しきれないのである。

子どもの興味・関心に基づいた多様なアプローチ、「主体的な学び」「知の総合化」「生きる力の育成」を目指して、各教師、各学校の創意工夫が、緊急の課題となる。教師の意識改革とそれに基づく具体的な指導計画の作成が成否の鍵となろう。

――修学旅行生の作文――

〈心に残る修学旅行〉

共に分かち合う

名古屋市立港明中学校　伊藤恵美

神戸・淡路島に修学旅行へ。それを聞いたとき驚いた。なぜなら、昨年まで私たちの学校の修学旅行先は、東京方面だったからだ。なぜ神戸に行くんだろう。どうして震災で仮設住宅に暮らす方を訪問するの。初めは、そんな気持ちを持っていた。でも今は、神戸を訪れ、仮設の方々を訪問することができて、本当によかったと思っている。

私たちは昨年の六月から仮設住宅に住むお年寄りの方、そして神戸市立鷹取中学校ボランティア委員会の皆さんと文通を始めた。神戸からの返事が届くたび、早く会いたい、と思う気持ちが大きくなっていった。

修学旅行二日目。班ごとにわかれての仮設住宅訪問。私たちの班は、鷹取仮設住宅と鷹取中学校を訪問した。訪問先へむかう時は、どんな交流会になるのかワクワクする期待と、直接会ってお話するのは初めてという不安で、胸がいっぱいだった。鷹取中では、吹奏楽部の演奏で迎えられ、すばらしい歓迎に感動した。交流会では、メンバーの自己紹介、「牛タンゲーム」を行った。楽しくなごやかな会となり、鷹取中の人たちとすぐうちとけることができた。

その後、鷹取中の皆さんと、鷹取仮設住宅を訪問。まず、おみやげとして三年生全員で作ったうちわ・壁かけをさしあげ、とても喜んでいただいた。次に、仮設の方に震災当時のビデオを見せていただいた。きっと当時の様子を思い出され、辛い思いもされたことと思う。でも、私たちのために、震災の時の体験を詳しく話して下さった。頭の中に地震がおきた直後の神戸のようすが広がり、悲しい気持ちになった。仮設の方、私の目にも涙が浮かぶ。でも、その後、用意していった「ジャンボすごろく」を皆で楽しんだ。仮設の方々にも、楽しんでいただき、すばらしい仮設訪問となった。すぐにお別れの時がせまり、なごりをおしみながら仮設をあとにした。

修学旅行では、この他にも淡路の民宿の方、分散体験学習でお世話になった方など、さまざまな人との出会いを体験することができた。中でも、仮設の方には喜び、悲しみを共に分かち合うという貴重な体験をさせていただき、三年生全員が温かな思いを胸に名古屋へ帰ってくることができたと思う。仮設の方とはこれからも文通を続け、この修学旅行で得られた優しい心をさらに育てていきたい。

仮設住宅の皆さんとの交流（左側立っているのが伊藤さん）

鷹取中の皆さんとの記念写真

神戸・大阪自由散策

旅行日程概略

（第1日）名古屋―大阪上本町＝淡路フェニックスパーク＝淡路島牧場＝宿舎（淡路泊）

（第2日）宿舎＝福良港〜うず潮観潮〜福良港＝淡路分散／体験学習（玉ねぎ収穫、陶芸吹きもどしづくり、ポプリ）＝神戸仮設住宅訪問（分散）＝神戸港ナイトクルージング＝宿舎（神戸泊）

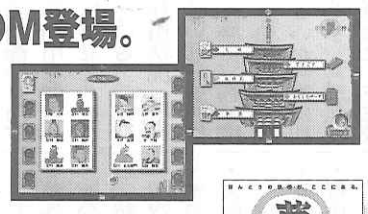
（第3日）宿舎…神戸、大阪市内分散学習…新大阪―名古屋（解散）

マルチメディアのNEC　NEC

京都をクリック。興味へジャンプ。

「調べ学習」の決定版CD-ROM登場。

京都1200年のすべてを、
文字データ1600件と1000件ものビジュアルデータに。
社会科の授業、修学旅行の
事前学習や手引きに最適。



文部省学習用ソフトウェア研究開発委託事業

Windows対応
マルチメディア コンテンツ
CD-ROMパッケージ

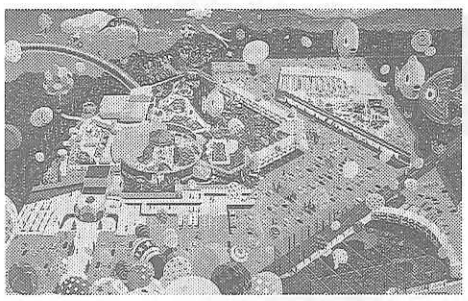
ほんとうの京都がここにある
京都夢紀行

標準価格4,800円（税込）
※Windowsは、米国マイクロソフト社の米国及びその他の国における登録商標です。

企画・制作/京都夢紀行研究開発委員会（京都市教育委員会・京都新聞社・NEC）

◎お問い合わせは…NEC京都支社
〒600-8424 京都市下京区堀川通綾小路下ル綾堀川町293-1　TEL.075-352-2261
URL：http://www.meshnet.or.jp/neckyoto

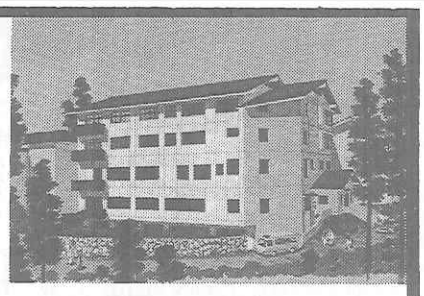
古都金沢の新名所 ルネスかなざわ



■リゾートロッジ（1泊2食）
小・中学生 ……7,500円より
高校生以上 ……8,500円より
最大500名様まで宿泊可
（一校一館に安心して宿泊できます）
■ルネスかなざわ入場料金（3時間コース）
小・中学生 …… 700円
高校生以上 ……1700円
■施設案内
●9つの温水プール●研修室●サウナ
●天然温泉（岩露天風呂付）●ボウリング
●和・洋食、中華、焼肉レストランなど

施設についてのお問い合わせは　ルネスかなざわ　〒920-0005 石川県金沢市高柳町1-70-1　TEL0762-51-7000　FAX0762-51-6877

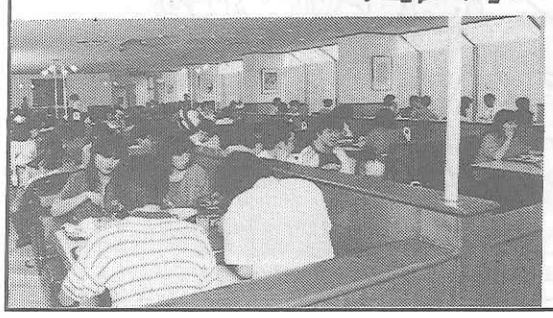
座禅体験で
〝心、リフレッシュ!!〟
清潔、安全、快適、
安心のお宿



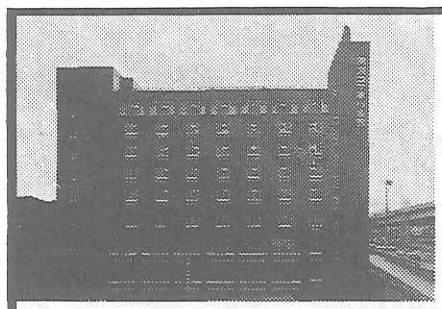
本館	17室	194帖	120人
比叡	28室	260帖	200人
北嶺	15室	160帖	130人
計	60室	614帖	450人

〈国際観光旅館〉
比叡山　延暦寺会館
TEL　0775―78―0047・0554
TELEX　5464―917
FAX　0775―79―5053

――修学旅行の楽しいお食事――
箱根彫刻の森美術館内
レストラン コンポート



◇500名様迄、ご利用いただけます。
◇当レストランは、彫刻の森美術館内の施設ですので、入館を必要とします。
〒250-0407
神奈川県足柄下郡箱根町二の平1121
☎0460(2)2221（予約センター）



東京コマ旅行会館は
第8回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。

東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。

ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木1丁目7番地
TEL(03)3585―1046(代表)

東京 コマ旅行会館